

加速器実験っておもしろい?

credit: co films



ヒッグス粒子発見に至るまでの科学者を追った

ドキュメンタリー映画 「Particle Fever」



シカゴ大学教授、Kavli IPMU主任研究員、
前フェルミ国立加速器研究所 副所長

ヤンキー・キム

2017.7.15 (Sat)

13:30-15:10 映画スクリーニング「Particle Fever」
 15:20-16:00 ヤンキー・キム教授 講演
 16:00-16:30 Q&A with Tea
 ※すべて英語での講演。通訳はありません。

日 時: 2017年7月15日(土) 13:30-16:30
 会 場: 東京大学柏キャンパス内 カブリ数物連携宇宙研究機構棟 3F
 主 催: 東京大学 国際高等研究所 カブリ数物連携宇宙研究機構 (Kavli IPMU)
 対 象: 中学生以上
 参加費: 無料
 定 員: 40名程度
 申 込: 応募フォーム (7月5日申込締切) <http://www.ipmu.jp/ja/publicevent-KIPMUSC201707>
 通 知: 応募多数の場合は抽選となります。決定の通知は詳細とともに7月7日ごろにご連絡いたします。
 問合せ: ☎ 04-7136-5981 Email: koukai-kouza@ipmu.jp

入場無料
要事前申込

加速器実験って面白い？

2017年7月15日(土) 13:30-16:30 (13:00開場)

プログラム

- 13:30-15:10 映画「Particle Fever」上映
- 15:10-15:20 休憩
- 15:20-16:00 ヤンキー・キムさん講演*
- 16:00-16:30 講師を囲んでティータイム*

* 使用言語：英語 (通訳はつきません)

講師紹介



ヤンキー・キム

シカゴ大学教授, Kavli IPMU主任研究員,
前フェルミ国立加速器研究所 副所長

1962年韓国生まれ。韓国大学で修士号を取得後、米国ロチェスター大学で博士号取得。カリフォルニア大学バークレー校助教、准教授、教授を経て、2003年より現職。2017年からKavli IPMU 主任研究員を兼任。

2004年から2006年にはCDF実験の共同代表、2006年から2013年にはフェルミ国立加速器研究所で副所長を務めた。精力的な活動と飾らない人柄に多くの人望が集まる。専門は素粒子実験。

映画「Particle Fever」

製作：2013年 / 製作国：アメリカ / 監督：マーク・レヴィンソン / 日本語字幕：野村泰紀, 東京大学 Kavli IPMU, JVC

Kavli IPMUの研究者はもちろん多くの物理学者が約30年もその稼働を待ちかねたCERN(欧州原子核研究機構)のLHC加速器。稼働直前の2007年から、ATLAS実験とCMS実験によるヒッグス粒子発見に至る2012年までの約5年間の長きに渡り、理論物理学者と実験物理学者6人の動向を追ったドキュメンタリー映画です。海外ではドキュメンタリーとしてだけでなく、商業映画としても高い評価を得ました。

この映画では、ヒッグス粒子探索の意義や加速器実験のしくみがわかりやすいアニメーションで語られるだけでなく、装置の稼働、事故、そしてヒッグス粒子発見に至るまでの間の6人それぞれのサイエンスにかける姿が生き生きと描きだされます。

物語を通じ、物理学者は今日この日を生きる上ですぐには必要とされないサイエンス(特に基礎科学)は人類にとって芸術を行うのと同様に重要かつ必要なものと語ります。知らず知らずの内に科学者たちに共感し、ヒッグス粒子発見の瞬間には共に祝福をせずにはいられない、稀有な物語。

会場

東京大学柏キャンパス Kavli IPMU棟レクチャーホール

住所：千葉県柏市柏の葉5-1-5

柏の葉キャンパス駅(つくばエクスプレス)からバスで約8分
柏駅西口(JR常磐線・アーバンパークライン)からバスで約30分

